山　口　県　の　農　林　水　産　業　の　概　要

特徴・取組

山口県は、本州の西端に位置し、日本海、響灘、瀬戸内海と三方が海に開かれ、多彩で豊かな自然に恵まれている。
県域は、特徴として山林や傾斜地が多く、中山間地域が県の約７割を占め、気候は、概して温暖だが、沿岸部と内陸部の平均気温・積雪量の差が大きい。

産業は、瀬戸内海側では、重化学コンビナートを中心とした工業や流通業などが発展する一方で、日本海側は、農業・漁業などの第一次産業と観光業などのサービス産業が中心となっている。

米は、県内全域で栽培されており、野菜は、県中西部の指定産地を中心にキャベツ、だいこん、たまねぎ、トマトなどが栽培され、県オリジナル野菜の「はなっこりー」も需要が高まっている。果樹は、瀬戸内側を中心に温州みかん、中山間地域で、日本なし、くりなどが栽培され、畜産は、肉用牛（黒毛和牛、無角和牛、見島牛等）を始め、乳用牛、豚、鶏が各地で飼養されている。
漁業は、日本海側では、あじ、いわし等を対象とするまき網・敷網やふぐ・あまだいはえ縄、下関漁港を基地とする沖合底びき網、瀬戸内海側では、えび類等を対象とした小型底びき網や、のり・くるまえび等の養殖がそれぞれ営まれている。

県は、地域農業の持続的な発展を図るため、集落営農法人化を推進するとともに、集落営農法人の高齢化・担い手不足の課題解決のため集落営農法人連合体の設立を支援し、更なる規模拡大や複合化・多角化などによる雇用の創出と所得の拡大を推進している。
また、県産農林水産物の消費拡大につなげるため、農林水産物及び主な原料が県産100%の加工品の中から厳選した商品を「やまぐちブランド」として、県内はもとより県外にも幅広く情報発信をしている。

主な農林水産物

水稲

田が耕地面積の約8割、米が農業産出額の約3割を占めている。
主な品種はコシヒカリ、ヒノヒカリ、ひとめぼれ。

はなっこりー

中国野菜のサイシンとブロッコリーを掛け合わせて作られた、山口県オリジナル野菜。花だけでなく葉も茎も食べられるのが特徴。

はだか麦

「トヨノカゼ」は、美祢市や山口市の中山間地域を中心に栽培されており、味噌等の原料として、味噌加工業者等で使用されている。

あまだい類

萩市の見島周辺を漁場とし、全国1位（令和元年）の漁獲量と、産地では刺身で食される鮮度の高さを誇る。

リンドウ

エゾリンドウ在来種同士を交雑し、山口県が開発した「西京の初夏」は、耐暑性に優れ、国内で最も早く出荷ができる。

ふぐ

下関市の南風泊（はえどまり）市場は天然とらふぐの取扱量日本一。「袋ぜり」という独特のせりが行われている。（「下関ふく」はGI登録）

れんこん

全国でも有数のれんこん産地。岩国市が県内収穫量の大半を占める。
（収穫量全国5位）

あんこう

対馬海峡から本県の見島沖合を漁場とし、下関漁港は全国1位（令和元年）の水揚量を誇る。

せとみ

山口県オリジナル柑橘。周防大島町を中心に沿岸部で栽培。特に品質の良いものを「ゆめほっぺ」として販売。

長州黒かしわ（地鶏）

「長州黒かしわ」は天然記念物「黒柏鶏」の雄と在来種等の交配により作出された山口県オリジナルの地鶏。
主に長門市で飼養。

山口県内の各地域における農林水産物

北部地域

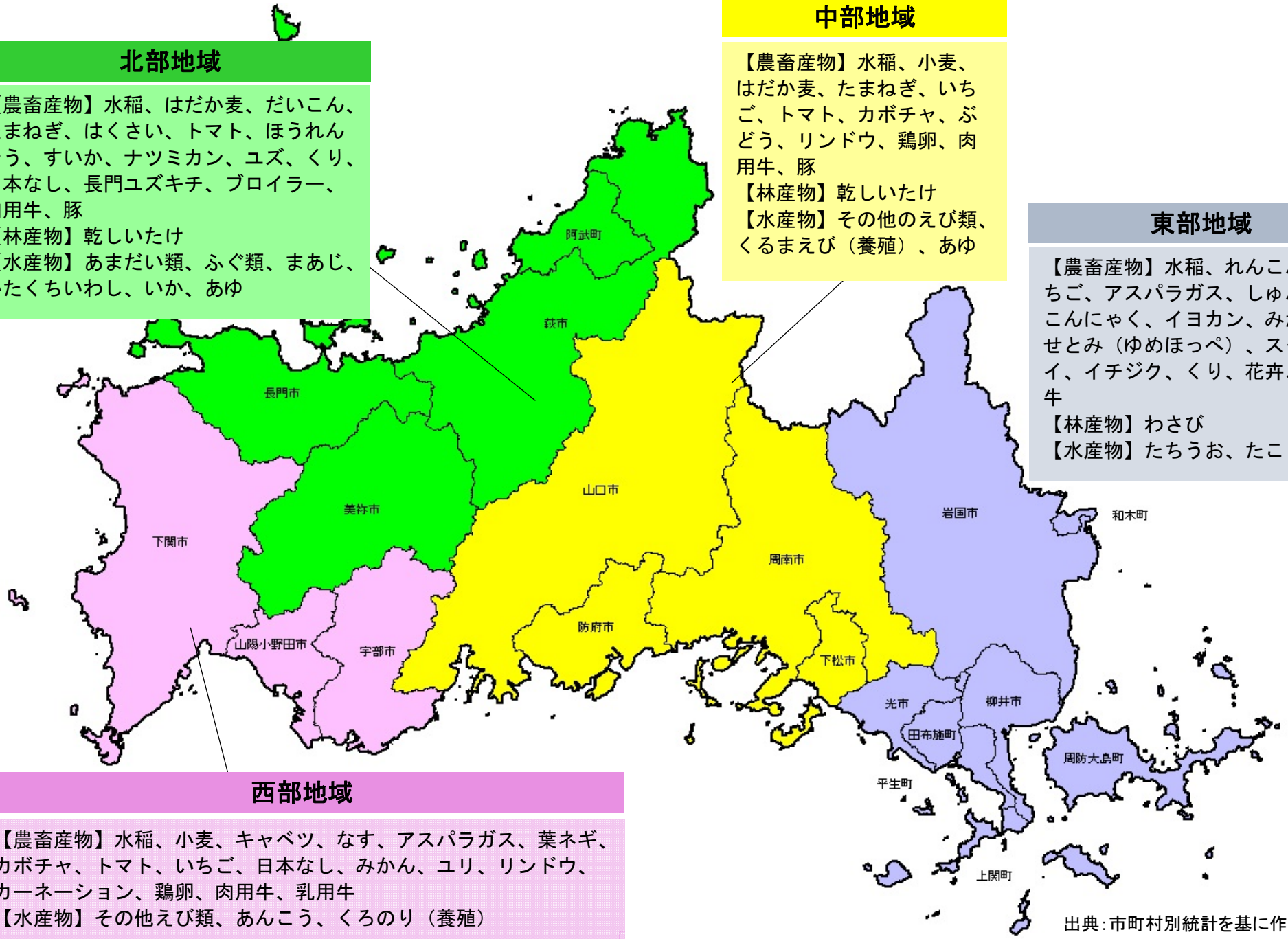
【農畜産物】水稲、はだか麦、だいこん、たまねぎ、はくさい、トマト、ほうれんそう、すいか、ナツミカン、ユズ、くり、日本なし、長門ユズキチ、ブロイラー、肉用牛、豚
【林産物】乾しいたけ
【水産物】あまだい類、ふぐ類、まあじ、かたくちいわし、いか、あゆ

中部地域

【農畜産物】水稲、小麦、はだか麦、たまねぎ、いちご、トマト、カボチャ、ぶどう、リンドウ、鶏卵、肉用牛、豚
【林産物】乾しいたけ
【水産物】その他のえび類、くるまえび（養殖）、あゆ

東部地域

【農畜産物】水稲、れんこん、いちご、アスパラガス、しゅんぎく、こんにゃく、イヨカン、みかん、せとみ（ゆめほっぺ）、スダイダイ、イチジク、くり、花卉、肉用牛
【林産物】わさび
【水産物】たちうお、たこ



西部地域

【農畜産物】水稲、小麦、キャベツ、なす、アスパラガス、葉ネギ、カボチャ、トマト、いちご、日本なし、みかん、ユリ、リンドウ、カーネーション、鶏卵、肉用牛、乳用牛
【水産物】その他えび類、あんこう、くろのり（養殖）

出典：市町村別統計を基に作成

山　口　県　の　農　業　（　1　）

・耕地面積は４万4,900haで、うち83%が田。
・農業経営体数は１万5,839経営体で、全国第31位。うち法人経営は440経営体。総農家数は２万7,338戸で、うち販売農家は１万4,837戸。
・認定農業者数は1,477経営体で、全国第39位。うち法人は415法人。

耕地面積

区　分	山　口　県	全　国	全国順位
耕地面積	44,900 ha	4,372,000 ha	32
田	37,300 ha	2,379,000 ha	26
畑	7,590 ha	1,993,000 ha	35
普通畑	4,680 ha	1,130,000 ha	36
樹園地	2,570 ha	268,100 ha	33
牧草地	334 ha	595,100 ha	28
参考）総土地面積	611,255 ha	37,797,561 ha	23

出典：「令和2年耕地面積（7月15日現在）」、「令和3年全国都道府県市区町村別面積調（1月1日時点）」（国土交通省国土地理院）

荒廃農地面積

区　分	山　口　県	全　国	全国順位
荒廃農地面積	10,660 ha	283,536 ha	10

出典：「令和元年の都道府県別の荒廃農地面積」

担い手への農地の集積状況

区　分	山　口　県	全　国	全国順位
担い手への集積面積	14,053 ha	2,508,560 ha	33
集積率	30.3 %	57.1 %	32

出典：「農地中間管理機構の実績等に関する資料（令和元年度版）」
注：　農地中間管理機構を介さないものを含む。
　　令和元年３月末の数値である。

農業経営体数、農家数及び集落営農数

区　分	山　口　県	全　国	全国順位
農業経営体数	15,839 経営体	1,075,705 経営体	31
法人経営体	440 経営体	30,707 経営体	32
総農家数	27,338 戸	1,747,079 戸	31
販売農家	14,837 戸	1,027,892 戸	31
参考）世帯総数	598,834 世帯	53,448,685 世帯	25
集落営農数	341 集落営農	14,832 集落営農	19

出典：「2020年農林業センサス（令和2年2月1日現在）」、「平成27年国勢調査」（総務省統計局）、「集落営農実態調査（令和2年2月1日現在）」

基幹的農業従事者数及び認定農業者数

区　分	山　口　県	全　国	全国順位
基幹的農業従事者数	16,613 人	1,363,038 人	36
男	9,942 人	822,144 人	37
女	6,671 人	540,894 人	35
65歳以上	14,105 人	948,621 人	32
基幹的農業従事者数に対する65歳以上割合	84.9 %	69.6 %	－
認定農業者数	1,477 経営体	233,806 経営体	39
法人数	415 法人	26,080 法人	30
参考）総人口数	1,404,729 人	127,094,745 人	27

出典：「2020年農林業センサス（令和2年2月1日現在）」、「認定農業者の認定状況（令和2年3月末現在）」、「平成27年国勢調査」（総務省統計局）

令和3年3月31日時点における最新の統計等の公表データを使用
（但し「2020年農林業センサス」は令和3年4月27日公表データを使用）

山　口　県　の　農　業　（　２　）

・農業産出額は629億円で、全国第41位。内訳は、米が204億円、野菜が148億円、鶏卵が43億円となっている。
・農畜産物の生産状況は、せとみ、スダイダイ及び長門ユズキチが全国第１位、イヨカンが４位、れんこんが５位。
・農業者等による生産関連事業は、農産加工の年間販売金額が354億4,500万円で、全国第８位。

農業産出額

区　分	山　口　県	全　国	全国順位
農業産出額	629 億円	89,387 億円	41
米	204 億円	17,484 億円	28
麦類	2 億円	543 億円	21 ＊
雑穀	0 億円	110 億円	36
豆類	2 億円	773 億円	31
いも類	8 億円	2,007 億円	25
野菜	148 億円	21,515 億円	35
果実	47 億円	8,399 億円	38
花き	28 億円	3,264 億円	33
工芸農作物	2 億円	1,699 億円	35
その他作物	10 億円	718 億円	18 ＊
畜産	178 億円	32,344 億円	35
肉用牛	47 億円	7,482 億円	33
乳用牛	23 億円	9,353 億円	41
生乳	18 億円	7,629 億円	41
豚	16 億円	6,122 億円	38
鶏	89 億円	8,647 億円	28
鶏卵	43 億円	4,595 億円	29
ブロイラー	38 億円	3,510 億円	18 ＊
その他畜産物	3 億円	740 億円	17
加工農産物	0 億円	530 億円	40

出典：「令和元年生産農業所得統計」
注：１　「全国」の値は、都道府県別に推計した農業産出額を合計した値であり、全国推計した農業総産出額とは一致しない。
　　２　「＊」印がある区分の順位は、秘密の保護上統計数値を公表していない都道府県を除いた順位である。

農畜産物の生産状況

区　分		年次	山　口　県	全　国	全国順位
せとみ	収穫量	H30	306 t	306 t	1
スダイダイ	収穫量	H30	155 t	160 t	1
長門ユズキチ	収穫量	H30	21 t	21 t	1
イヨカン（伊予柑）	収穫量	H30	219 t	30,111 t	4
れんこん	収穫量	元	2,480 t	52,700 t	5
はだか麦	収穫量	R2	942 t	20,400 t	6 ＊
ナツミ（南津海）	収穫量	H30	49 t	1,627 t	7
くり	収穫量	元	516 t	15,700 t	8
ユズ（柚）	収穫量	H30	297 t	22,044 t	9
ナツミカン	収穫量	H30	405 t	32,693 t	10

出典：「作物統計」、「野菜生産出荷統計」、「果樹生産出荷統計」、「特産果樹生産動態等調査」
注：「＊」印がある区分の順位は、秘密の保護上統計数値を公表していない都道府県を除いた順位である。

農業生産関連事業の年間販売金額及び事業体数

区　分		山　口　県	全　国	全国順位
農産加工	総額	35,445 百万円	946,841 百万円	8
	事業体数	470 事業体	32,400 事業体	35
農産物直売所	総額	17,085 百万円	1,053,366 百万円	28
	事業体数	510 事業体	23,650 事業体	19
観光農園	総額	804 百万円	35,943 百万円	15
	経営体数	100 経営体	5,290 経営体	16

出典：「令和元年度6次産業化総合調査」

令和3年3月31日時点における最新の統計等の公表データを使用

山　　口　　県　　の　　林　　業

・林業産出額は31億1,000万円で、全国第34位。内訳は、木材生産が79%となっている。
・林産物の生産状況は、竹材が全国第６位、乾しいたけが11位、わさび（根茎）が12位。
・製材工場数は62工場で、全国第36位。

林野面積

区　　分	山　口　県	全　　国	全国順位
林野面積	439,738 ha	24,770,166 ha	20
国有林	11,407 ha	7,153,338 ha	39
民有林	428,331 ha	17,616,828 ha	14
人工林面積	195,014 ha	10,203,842 ha	22

出典：「2020年農林業センサス（令和2年2月1日現在）」、「森林資源の現況」（平成29年3月31日現在）

林業経営体数

区　　分	山　口　県	全　　国	全国順位
林業経営体数	543 経営体	34,001 経営体	23
法人経営体	25 経営体	4,093 経営体	41

出典：「2020年農林業センサス（令和2年2月1日現在）」

林業産出額

区　　分	山　口　県	全　　国	全国順位
林業産出額	31.1 億円	4,549.2 億円	34
木材生産	24.7 億円	2,294.0 億円	25
栽培きのこ類生産	5.5 億円	2,170.2 億円	39

出典：「令和元年林業産出額」
注：　「全国」の値は、都道府県別に推計した林業産出額を合計した値であり、全国推計した林業産出額とは一致しない。

林産物の生産状況

区　　分		山　口　県	全　　国	全国順位
素材生産量		243 千㎥	21,883 千㎥	27
針葉樹		196 千㎥	19,876 千㎥	29
あかまつ・くろまつ		2 千㎥	601 千㎥	24
広葉樹		47 千㎥	2,007 千束	11
竹材	生産量	16 千束	1,071 千束	6
乾しいたけ	生産量	27 t	2,414 t	11
わさび（根茎）	生産量	3 t	551 t	12
木・竹酢液	生産量	5,330 リットル	2,280,641 リットル	18

出典：「令和元年木材統計」、「令和元年特用林産基礎資料」

製材工場数

区　　分	山　口　県	全　　国	全国順位
工場数	62 工場	4,382 工場	36
製材用素材の入荷があった工場数	62 工場	4,340 工場	35
国産材のみ	35 工場	3,358 工場	37
国産材と輸入材	26 工場	771 工場	9

出典：「令和元年木材統計」

令和3年3月31日時点における最新の統計等の公表データを使用
（但し「2020年農林業センサス」は令和3年4月27日公表データを使用）

山　　口　　県　　の　　漁　　業

・海面漁業・養殖業産出額は146億円で、全国第28位。
・水産物の生産状況は、あまだい類が全国第１位、くるまえびが４位。
・漁業者等による生産関連事業は、水産加工の年間販売金額は14億4,000万円で、全国第23位。

漁船隻数

区　　分	山　口　県	全　　国	全国順位
漁船隻数	3,865 隻	132,201 隻	13
動力漁船	2,905 隻	69,920 隻	7

出典：「2018年漁業センサス（平成30年11月１日現在）」
注：　漁船隻数は、海面漁業経営体が漁業生産のために使用した漁船の数である。

漁業経営体数

区　　分	山　口　県	全　　国	全国順位
海面漁業経営体数	2,858 経営体	79,067 経営体	8
内水面漁業経営体数	24 経営体	4,772 経営体	37

出典：「2018年漁業センサス（平成30年11月１日現在）」

漁業就業者数

区　　分	山　口　県	全　　国	全国順位
海面漁業就業者数	3,923 人	151,701 人	13
男	3,586 人	134,186 人	13
女	337 人	17,515 人	15

出典：「2018年漁業センサス（平成30年11月１日現在）」

漁業産出額

区　　分	山　口　県	全　　国	全国順位
海面漁業・養殖業産出額	146 億円	13,484 億円	28

出典：「令和元年漁業産出額」

水産物の生産状況

区　　分	山　口　県	全　　国	全国順位
海面漁業・養殖業生産量	23,686 t	4,143,433 t	28 ＊
海面漁業漁獲量	22,453 t	3,228,206 t	25
あまだい類	287 t	1,214 t	1 ＊
海面養殖業収獲量	1,233 t	915,228 t	27 ＊
くるまえび	96 t	1,458 t	4 ＊
内水面漁業・養殖業生産量	59 t	52,875 t	32 ＊
内水面漁業漁獲量	14 t	21,767 t	29 ＊
あゆ	13 t	2,053 t	15 ＊
内水面養殖業収獲量	45 t	31,108 t	34 ＊
あゆ	24 t	4,089 t	12 ＊

出典：「令和元年漁業・養殖業生産統計」
注：1　海面漁業・養殖業生産量は、当該都道府県に所在する漁業・養殖業経営体の生産量である。
　　2　「＊」印がある区分の順位は、秘密の保護上統計数値を公表していない都道府県を除いた順位である。
　　3　東京電力ホールディングス株式会社福島第一原子力発電所事故の影響を受けた区域において、同事故の影響により出荷制限又出荷自粛の措置がとられたものについては、生産量に含めていない。

漁業生産関連事業の年間販売金額及び事業体数

区　　分		山　口　県	全　　国	全国順位
水産加工	総額	1,440 百万円	175,132 百万円	23
	事業体数	50 事業体	1,500 事業体	6
水産物直売所	総額	319 百万円	36,489 百万円	24 ＊
	事業体数	30 事業体	800 事業体	11 ＊
漁家民宿	総額	56 百万円	6,659 百万円	25 ＊
	経営体数	20 経営体	900 経営体	14 ＊

出典：「令和元年度6次産業化総合調査」
注：　「＊」印がある区分の順位は、秘密の保護上統計数値を公表していない都道府県を除いた順位である。

令和3年3月31日時点における最新の統計等の公表データを使用

山　口　県　の　農　林　水　産　業　の　話　題　等

「担い手支援日本一」を掲げ担い手の定着を支援

「就業するなら山口県！」をかけ声に、山口県では、農林水産業の次代を担う新規就業者について、募集から研修、就業、定着までの一貫した「日本一の担い手支援策」を構築し、県内外からの参入と就業後の定着を進めている。

具体的には、法人就業者支援による農の雇用事業の給付期間延長や、住宅確保支援、農業大学校と連携した技術指導体制の強化など、手厚い支援で担い手の確保を目指している。

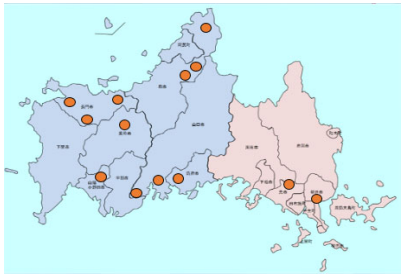
就農相談会の様子

新規就業者受入に必要な機械・施設等の整備を支援

小規模法人が結集、集落営農法人連合体を結成

山口県内における集落営農法人は、20ha未満の法人が約半数を占め、高齢化や新規就業者の確保に課題を抱えている。

山口県では、新たな人材の雇用や機械の有効利用等に向けて、複数の法人が出資を行い集落営農法人連合体を結成。大型機械の整備や資材の一括購入、新規就業者の確保等を行いながら、集落の維持に向け、雇用創出と所得拡大に取り組んでいる。



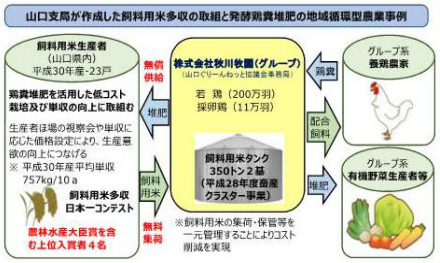
13の集落営農法人連合体が結成（令和３年３月末現在）

萩酒米みがき協同組合は集落営農法人と酒造会社による全国初の事業協同組合（写真はとう精工場）

地域循環型耕畜連携の取組（飼料用米と発酵鶏ふん堆肥）

山口県内の大手養鶏業者が鶏ふん廃棄のコストに苦慮する中、秋川牧園は、「完熟鶏ふん堆肥」を無償で飼料用米生産者グループに供与し、「飼料用米の多収・低コスト化」を通じた地域循環型の耕畜連携に取り組んでいる。土作りと多収品種による単収向上を図り、収穫された飼料用米は秋川牧園が全量買い取っている。

また、飼料用米生産ほ場の視察会を通じてノウハウの共有と生産意欲の向上を図り、「飼料用米多収日本一コンテスト」では、農林水産大臣賞を含む上位入賞者を多く輩出している。



飼料用米多収の取り組みと発酵鶏ふん堆肥の地域循環型農業のスキーム

「飼料用米多収日本一コンテスト」では農林水産大臣賞を含む上位入賞者を輩出